

# 稻作だより

第 11 号

令和 7 年 11 月 4 日発行

やまがた温暖化対応米づくり日本一運動

JA さがえ西村山 JA さがえ西村山水稲部会  
(TEL 86-8184)

西村山農業技術普及課 (TEL 86-8287)

## 秋耕を行い、稻わらの腐熟を促進させましょう！ 土づくりで異常気象に負けない圃場準備を！

### 稻わらの施用効果

- 稻わらを施用すると、土壤中の養分量が高まります。また、土壤が柔らかくなり、孔隙率が高まるため、水分や空気を保持する機能が高まります。

表1 稻わらで土壤に還元される養分量 (kg/10a)

| 窒素 | リン酸 | カリ  | 石灰 | 苦土 | 鉄 | ケイ酸 |
|----|-----|-----|----|----|---|-----|
| 4  | 2   | 1 4 | 3  | 2  | 1 | 6 0 |

※稻わら由来のケイ酸の利用率は約 10~20%

表2 稻わら施用による土壤物理性の変化

|       | 孔隙率 (%) | 貫入抵抗値(10cm) |
|-------|---------|-------------|
| 稻わら施用 | 7 2     | 8 ~ 9       |
| 無施用   | 6 5     | 1 3 ~ 1 4   |

### 秋浅耕で稻わらの腐熟促進

- 稻わらは気温が 10°C 以下になると分解が進まなくなります。稻刈り後はできるだけ早い時期に **5cm 程度の浅耕** を行い、腐熟促進を図りましょう。
- 石灰窒素や発酵鶏ふんの秋施用で、稻わらの腐熟が促進されます。ただし、石灰窒素は、玄米粗タンパク質含有率が高まる場合があるため、連年の施用や、地力の高い圃場での使用には注意が必要です。
- つや姫の場合、石灰窒素の投入量は 10kg/10a を上限とし、必ず基肥の減肥を行いましょう（地力高、全量基肥栽培の場合、石灰窒素施用は控える）。

### 稻わらの分解が遅れると…

- 春に稻わらの分解が急激に行われることで、土壤の異常還元（ワキ）が進み、根が伸びにくくなることで、稻の初期生育が抑制されます。早めの秋耕や腐熟促進剤を施用し、稻わらの一層の腐熟促進を図りましょう。

JA さがえ西村山 LINE アカウントからもご覧になれます。  
登録は QR コードからお願ひいたします

～農作業 あせらず！ 気もまず！ ゆっくりと！～